

令和4年度第1回茨城県地域交通政策推進協議会交通計画分科会 議事録

【開催日時】 令和4年7月26日(火) 10:30~11:30

【場 所】 茨城県庁10階政策企画部会議室(Webexによるオンライン併用)

【出席委員】 出席19、欠席0

会場出席(11)

岡本会長、北村委員、川上委員(江幡委員代理)、軽部委員、任田委員(澤島委員代理)、出野委員(中本委員代理)、松上委員(塩入委員代理、小林委員代理)、任田委員(飛田委員代理)、大館委員、吉田委員、林委員(白戸委員代理)

オンライン出席(8)

安島委員、青木委員、古郡委員、日置委員、小川委員(小川委員代理)、松木委員、仲野委員、國下委員

【事務局】 茨城県政策企画部交通政策課 寺田課長、富山副参事、山浦課長補佐(オンライン)、山田

【次 第】

1 開会

2 あいさつ

3 議事

(1) 計画の概要について

(2) 県内の地域特性及び地域旅客運送サービスの現状

(3) 県の基本的な方向性

(4) 地域間幹線システムの維持確保の考え方

4 閉会

1 開会

2 あいさつ：会長

3 議事

(1) 計画の概要について

○事務局

(資料説明)

○委員

私の方からよろしいでしょうか。1－2の計画の位置付けで主に地域間幹線系統と示しています。この書き方だと路線バスしか対象にしないのかなというようにもとれると思います。1－4で色々なモードを対象にすると記載しているので、そういった意図になるような記載に修正した方が良いと思います。

(2) 県内の地域特性及び地域旅客運送サービスの現状

(3) 県の基本的な方向性

○事務局

(資料説明)

○委員

P7の人口増減と高齢化の表は面白い見せ方だと思います。現場の感覚で言うと、高齢化は確かにありますが、少子化の影響が非常に大きいと思います。そういった資料やデータもあると良いと思います。それから現状と課題のまとめについて、高齢化と人口減少と記載されていますが具体的にどこが減っているのか、そこは取り上げてもらうと良いと思います。どこをターゲットにして路線等を維持していくのかという議論につなげていくことが必要だと思います。現状と課題のまとめにも少子化の話を入れてほしいと思います。

○委員

P45の廃止や縮減については、総論賛成、各論反対になりがちだと思います。廃止や縮減の影響を受けるなど、関係してくるような県民は抵抗感が強いと思います。市町村でも議論に乗っかっていきづらい側面があると考えております。こうした方向性を示す際に、これまでのピンチをチャンスに変えるような良い事例があると、受け入れてもらえる部分があると思います。工夫が必要だと思います。現時点で事例があれば紹介していただきたいです。

○事務局

地域の実情に合わせた取組やダウンサイジングなどの事例を整理しているところです。例えば、地域間幹線系統の路線バスをコミュニティバスに乗合タクシーに変更するなどサイズの最適化をしている例もありますし、高萩市の「のるる」は、朝晩は定期、昼間の運行はデマンド化して効率化などを行っています。こうした事例を参考にしながら、必要に応じて、計画の方に事例を取り上げていくことも検討したいと考えています。

○委員

事業者の皆様は、それぞれの市町村で臨機応変に対応した事例が多々あろうと思われ
ます。そういった情報を紹介していただいて、取捨選択して事例集として、今後に役立
てていければと思います。例えば、龍ヶ崎市では日中の時間帯は、路線バスもコミュニ
ティバスも均一料金で運行して、需要へのサービスを展開しています。それぞれの事業者や自
治体のお話を聞いてもらえれば良いと思います。

○委員

既存交通の機能強化とはどういったイメージなのでしょう。

○事務局

現在ある交通サービスの生産性を上げていくなど、より良くすることを実施してい
きたいと考えています。現在ある交通サービスも改善の余地があると考えています。地域の
皆様と協議の場を設けて、再編も含めて検討する体制が作れないかと考えています。交通
サービス同士の役割分担、幹線交通との接続強化など、各交通が持つ役割を明確化して、
それぞれの路線が役割を果たしながら、うまく接続することで機能性を高めていくこと
ができないかと考えています。

○委員

現状では、会議を開催し、目標を設定して展開していく形になっているが、それだけで
なく、どんどん掘り下げて協議していこうということでしょうか。路線をひとつひとつ分
析していくという理解で良いのでしょうか。地域公共交通会議で表をみて終わってしまう
のではなく、しっかりと、路線をどうしていくかということをやろうということなのでし
ょうか。

(4) 地域間幹線系統の維持確保の考え方

○事務局

(資料説明)

○委員

これまで、しっかりとした議論をやっていなかったと感じています。その結果、補助金
の額を決める会議になっています。維持するためにどのようなことを実施していけば良
いのか、コミュニティ交通は行っていますが、地域間幹線系統はあまりやってこなかった。
バス事業者だけではできないこともありますので、行政の力を借りながらやってけれ
ばと思います。色々ところで議論していくのであれば、それでいいと思います。

○委員

通院は、昔はドル箱であったが、現在、最寄のかかりつけの病院に行くことが増えていきます。それでも1ヶ月に1回、2ヶ月に1回、大きな病院に移動しているので、そこはつなげないといけないと感じています。高齢者が増えても自動車が利用できる人も増えている。何か施策が必要となると考えています。

○事務局

議論ということについて、4-1、4-3 に示しているとおり、広域路線について評価をしていきます。議論については、評価の視点を議論するのか、評価した後の対応策を議論するのかがあると思います。

○委員

各路線を評価した結果、どのように対応していくのかというところを議論できればと思います。路線を維持するためだけ、補助金を維持するためだけではなく、実用に伴った形で検討していければ良いと思います。

○事務局

評価した中で、どのようにして維持していくのかを視野に入れながら検討することを考えていきたいと思っています。

○委員

石岡市では、産婦人科がなくなりました。そのため、石岡市の妊婦さんは広域移動が必要となります。石岡市だけの問題ではなく、色々な街で起こり得ることです。広域の移動手段を準備しておくことが必要で、必要な路線を掘り起こす考え方です。現在ある路線をどう維持していくのかという議論に加えて、もう一步踏み込んで、どういった路線が必要なのか、これは県の役割だと思っています。

○委員

平均乗車密度が5人を下回った路線に対してどのように対応しているのでしょうか。

○事務局

平均乗車密度が5人を下回って路線は県だけでなく、市町村にも協力してもらっています。事業性について、引き続き、平均乗車密度は注視していきたいと考えています。

○委員

地域間幹線システムの維持の考え方について議論が必要な中で、地域公共交通計画として、どういった持続可能なネットワークを構築していくのか、それを念頭に置きながら議論する必要があると思います。県内移動ニーズに対して、鉄道とバスをどのように組み合わせ

せていくのか、その中で、地域間幹線系統はどう重要なのか、どう維持していくのかを議論していく必要があると思います。

○委員

地方鉄道の再構築の話も出ている中で、バスでサポートする部分もありますし、この会議は重要な関連性があると思います。情報共有しながら、アイデアを出し合いながら持続という形が良いと思います。次回以上の分科会で、情報共有や議論をしていければと思います。

5 閉会

以上